F's view

1

2

3

1 平安閣アネックス1階式場には、船橋素幸社長の生前葬&還暦を祝うさまざまな写真を展示
2 平安閣アネックス1階式場に設けられた選挙投票所を模したブース(計6ブースを設置)
3 遊び心ある選挙ポスター?(もどき)が笑いを誘う

リンクモア、「新たな葬送のあり方」として生前葬&生誕祭を開催

青森県青森市を拠点に冠婚葬祭事業を手がける㈱リンクモア（社長船橋素幸氏）は、８月25日、「新しい生活様式にシフトした新しい儀礼文化の創造提案」をテーマに、「“セレブレーション・オブ・ライフ”スタイルによる生前葬“再生の扉 開けーGOMA オープン・セサミー”」を開催した。

今回のイベントは、船橋社長が還暦を迎えるにあたり、新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人とのつながりが困難な時代となるなか、「新しい生活様式」のなかで今後あるべき“儀礼の形とは何か”という問いに対する回答として、船橋社長自身の生前葬を同社が提唱する“セレブレーション・オブ・ライフ”という新しいスタイルで開催したもの。

「再生の扉」をテーマコンセプトに掲げた今回のイベントでは、船橋社長の生前葬＆感謝祭とともに、青森県弘前市出身のアーティストGOMA氏とのコラボレーションから生まれた、一点ものの棺や同氏の創作物の展示も併催された。

コロナ禍のなかでの開催ということもあり、葬祭会館「平安閣アネックス」の２式場と隣接する家族葬会館「平安閣CASITA」１式場の計３式場で開催。来場者が複数の会場を巡ることで３密を避けるように配慮した。

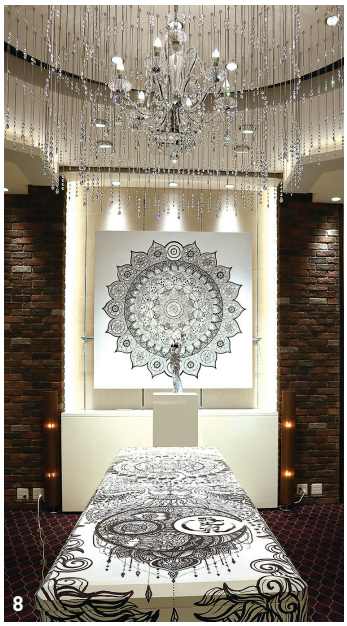
メイン会場である平安閣アネックス１階には選挙の投票所をイメージしたブースを設置。投票用紙代わりに用意されたメッセ

4

5

6

7


8

9

10

4·5·6 平安閣アネックス2階式場には、船橋社長の私物を数多く展示。膨大な書籍の一部はもちろん、社長年表や最後の晩餐時に食したいカレーライス等が展示された。マリリン・モンロー好きという意外な一面も……

7·8 平安閣CASITA式場に展示されたGOMA氏作品の展示物（棺、女神像、曼荼羅）

9 コラボレーションしたGOMA氏。文字が読めないディスクレシアと発達障害ADHDをもって生まれながらも、その脳から生まれる発想で、国内外から注目を浴びる新進気鋭のアーティストとして活躍中

10 当日、還暦の誕生日を迎えたことを機に生前葬も行なったリンクモア船橋社長

ージカードに船橋社長への想いを綴り、投票BOXを模したケースに投函する遊び心ある演出を施した。２階には社長ゆかりの愛読書や私物を展示。普段、見られない船橋社長の一面がわかる展示物で覆いつくされていた。

隣接する第２会場となったCASITAには、コラボレーションがなされたGOMA氏による棺や、女神像、曼荼羅などを展示。GOMA氏本人による作品の説明なども行なわれ、来場者と歓談する場面が絶えなかった。

船橋社長は、「還暦という節目を迎えるにあたり、いまだ衰えぬチャレンジ精神のもと、葬祭業をさまざまな手続きの窓口とすべく整備を進めるとともに、デジタル技術とアナログな考え方を融合させた新サービスの提供を目指してまいりました。そうしたなかで、故人を偲ぶ会を“お祝いの場”にできないかと模索するなかで今回のセレブレーション・オブ・ライフの提案を生前葬ならびに感謝の会として開催させていただきました」と開催趣旨を語った。

当日は、業界関係者や地域住民ら約100人が参加。コロナ禍のなかでの開催であったが、ひっきりなしに訪れる来場者と船橋社長らの笑い声が絶えない１日となった。

※セレブレーション・オブ・ライフ（Celebration of Life）とは、“人生のお祝い”を表わす。アメリカでは故人を弔う悲しい伝統的な葬儀ではなく、故人の人生や業績を讃えて「祝福」するイベントとしてとり行なうことが主流になりつつあることから、リンクモアではそのスタイルを継承し、ニューノーマル時代に向けた「新たな葬送のあり方」を提唱するとしている